

太田市住民協議会（第2回）
議事概要

第1分科会

区分	第1分科会
コーディネーター	構想日本 政策スタッフ 田中 俊
日時	2018年8月18日(土) 午後2時10分～4時00分
場所	宝泉行政センター 1階 1A研修室

主な論点

第1回協議会を踏まえて考えたことや実践したこと

- コ) 前回の住民協議会の感想や、その後帰って考えたことや実践したことがあれば聞かせていただきたい。
- 委) プラマークが沢山あることに驚いた。家に「その他プラ」用のごみ箱を用意した。
- 委) 前回の協議会后、家庭の中で、私のごみ分別を担当することになったのだが、菓の袋などにプラマークがあることに気付いた。分別したら、ごみが今までの半分になり、ごみ袋も45Lを使っていたが、20Lで間に合うようになった。
- 委) 今まで、ごみの事は気にしなかったがアパートのごみステーションを気にするようになった。私は一人暮らしなので週2回(月・木)、1回あたり中袋1袋程度の量のごみを出す、家族のいる世帯では1回あたり大袋2袋ぐらい出しているようだ。
- コ) 太田市の場合、もえるごみの袋は3種類あり、大袋45L・中袋30L・小袋20Lとなっている。皆さんは、ごみをどれくらい出すだろうか。
- 委) 1週間に45Lを1袋。
- 委) 生ごみは、1週間に45Lを2袋、草や枝木などで1袋。
- 委) 3週間に45Lを1袋。生ごみは自然に返すので出していない。
- 委) 1週間に45L1袋と30Lか20Lを1袋。
- 委) 1週間に45L1袋、30L1袋、草むしりをした時に1袋。
- コ) 平均的な1週間当たりのごみの量は、家族がいれば45Lを2～4袋、庭の草むしりをすればまた増える。一人暮らしは45Lを1袋といったところだろうか。

雑がみ等の資源ごみについて

- コ) 過去に市で実施した「太田市ごみ減量市民会議」の提言書に掲載されている組成分析調査結果をみると、もえるごみの中に「雑がみ」や「その他プラ」などの資源ごみが約23%含まれていることが分かる。この点についてはどうだろうか。
- 委) 学校や塾でプリントを大量にもらうが、ごみになってしまう。学校などで集めてリサイクルしたらどうか。
- 委) ミックスペーパーや雑がみは出せる条件が難しく大変なので、結局もえるごみで出してしまう。分別して雑がみで出せれば、ごみも随分減ると思う。
- コ) 紙ごみで、資源として出せるものと出せないものの線引きはどこなのか。
- 市) 明確な線引きがあるわけではないが、感熱紙などの加工された紙、シュレッダーにかけられた紙などは回収していない。
リサイクルできる紙類は雑がみとして行政センターの倉庫に出してほしい。
学校のテストや住所が入ったものなど個人情報があるもの、汚れていてリサイクルできないものなどは、もえるごみに出してほしい。
- 委) ごみの中でも特にペットボトルが多いように思う。資源回収も育成会で子供達がす

るだけでなく、時間のある高齢者による回収なども考えられるのではないかと。

- 委) 学校ではペットボトルのキャップを回収して、子供のワクチンに寄付しているが、太田市や企業ではやっているのだろうか。
- 市) 市では回収していないが、社会福祉協議会で回収している。

生ごみ処理について

- 委) 生ごみの水分量が多いので、生ごみ処理槽を使って水分を減らすことは良いことだと思うが、生ごみ処理槽の助成金のことは全然知らなかった。知っている人はそれほど多くないのではないだろうか。
- コ) 助成金を知らなかったということだが、生ごみ処理槽の存在は元々知っていたのだろうか。
- 委) 生ごみ処理槽の存在も知らなかった。知らない人も多いので、もっとチラシなどでPRしたらどうか。
- 委) 生ごみ処理槽を使った場合、処理した後のごみは資源になるのだろうか。また、電気代はどれくらいかかるのだろうか。
- 市) 生ごみを肥料にする機械もあり、家庭菜園などの肥料としても使える。電気代は1回10円程度。
- 委) 電気代を1回10円として、毎日使うとなると考えると電気代がかかる。
- 委) 市で生ごみ処理槽の助成をするメリットは何だろうか。電気式生ごみ処理機に3万5千円補助するメリットが市としてあるとは思えない。
- 委) 個人の生ごみ処理槽購入に助成金を出すより、市でまとめて生ごみを処理槽に入れて減量する方がいいのではないかと。
- 市) 生ごみの半分が水分であり、水分を飛ばしごみの重量が減ることで、コスト面でのメリットがあると考えている。
- 参考までに、生ごみ処理槽には電気式生ごみ処理機、コンポスター、EM処理容器の3種類あるが、電気式について、平成28年度は39台、平成29年度は40台の申請があった。
- 委) 市としては、すべての家庭に入れてほしいということだろうか。全家庭となると助成金も莫大な金額になる。
- 委) 水分量が50%から10%に減れば燃料代も削減される。参考までにシュミレーションしてコスト試算してみたらわかりやすいと思う。ちなみに、ごみは重油で燃やしているのか。
- 市) 燃料は使っていない。生ごみに水分があるほど時間が長くなり、焼却炉への負担が増える。
- コ) 市で助成金を出すのと、市でまとめて処理槽で処理するのではコスト的にどちらの方が安くなるのだろうか。コスト計算はすぐにはできないが、市としてのメリット、個人のメリットを考えた時、生ごみの水分量を減らせばごみの重量が減り、処理にかかる費用も減る、ひいては税金が他の事に使えるというメリットが出てくるのだと思う。

ごみ減量化に対する意識について

- 委) 小中学校の授業や親の教えなどで子供のころは分別の意識があるが、大人になると段々やらなくなってしまふ。物を増やさないこと、買わないことなど「4R」を意識づけしていくことが必要だと思うが、今の生活を考えると無理。
- 委) 若い世代はごみを減らすことについて意識が低い。市民の意識を高めることや、広報活動などで市民に周知する必要がある。
- コ) 小中学校では分別などについて教えているが、それ以降ごみの減量化に関して意識付けをする機会が少ないということに問題がありそうだ。
- 委) 確かに小中学校では学校で教えて分別しているが、高校生になるとやっていない。
- 委) 観光都市などはごみが少なく街がきれい。個人の意識も観光客の意識も違う気がする。きれいなステーションにはごみを捨てないが、汚いステーションにはごみが捨てられている。群馬県の一人当たりのごみ排出量が全国の中でも低いレベルにあることとつながるのではないかな。

ごみの分別方法について

- 委) 牛乳の紙パックの出し方がホームページなど見ても良くわからない。
- 市) 牛乳の紙パックは中をすすいでから、開いて乾かして資源ごみに出してほしい。分別できるものは、なるべく分別していただくとありがたい。
- 委) アルミ缶とスチール缶の出し方がよくわからない。
- 市) 市では、カンは資源ごみの日(月に2回)2週間に1回収している。アルミ缶もスチール缶も区別しないで出せる。
- 委) スーパーなどで資源ごみを回収しているところもあり便利なのだが、スチール缶は回収していないので、行政センターなどで随時回収してほしい。

まとめ

- コ) 第1回協議会を踏まえて、ごみ出しをしたことがなかった人がするようになった、プラマークを気にして分別したらごみが減ったことなどの変化が見えてきた。また今回の議論では、ごみの減量化についての市民の関心や意識をどのように高めていくのかというところに課題が見えた。次回は、紙ごみや雑紙をどのように資源化していくかなどについてさらに深堀していきたい。

第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	市原市総務部 次長 高澤 良英
日時	2018年8月18日(土) 午後2時10分～4時00分
場所	宝泉行政センター 1階 1B研修室

主な論点

ごみの分別について

- 委) 発泡スチロールや緩衝材の出し方について、市のホームページでは、もえるごみと資源ごみ(プラごみ)の両方に記載がある。実際、皆さんがどちらに分別しているのか気になる。
- 市) 発泡スチロールや緩衝材には、最近プラマークが付くようになった。マークを見て分別してもらいたい。マークがあるものは資源ごみ、ないものはもえるごみと判断してほしい。
- また、臭いや油などの汚れがあるものはもえるごみとしてほしい。
- 委) 電化製品などの大きい緩衝材でマークのあるものは細かくしてネットに入れればいいのか。
- 市) あまり細かくする必要はないが、ネットに入る程度にはしてもらいたい。
- 大きいものは行政センターに出していただくと資源ごみの日のステーションがいっぱいにならなくて助かる。
- コ) 以前はプラマークがついていなかったものにマークがつくなど、ごみや私たちの消費生活は日々進化している。
- コ) リサイクルできるのに、分別されずごみになっているものとしては、紙類が多い。リサイクルすればごみが少なくなる。
- 委) ダンボールなど分別しているつもりだが何がそんなに多いのか。
- 市) 紙と布でごみの半分を占めるが、リサイクルできない布や、これくらいなら捨ててもいいかという雑がみで多くなっていると思われる。
- コ) まだ分別できる余地があると思うが、そこをどうするのか。市民全員が少しならいいだろうと分別しないで捨てると、積もり積もって多くなる。

4Rについて

- コ) リユース(すぐ捨てない、何度も使う)、リデュース(ごみの発生を少なく)、リサイクル(リユースできないものは資源として再利用)、リフューズ(包装やレジ袋、箸など、いらぬものは断る)の「4R」について何かあるか。
- 委) 我が家では、コンポスターを使い、生ごみを土にもどしているため、40年間生ごみを出していない。傍にびわの木を植えたらずごく良く成長した。
- 物もリサイクル(リユース)している。タオルは雑巾にしたあと鍋敷にしている。ペットボトルのキャップやラベルはその他プラでリサイクルに出している。
- 捨てているものはお土産にもらったお菓子の箱くらいだろうか。
- 委) リユースという点で、レンジで温めて繰り返し使える湯たんぽを使っている。
- コ) 消費者として商品を買う時に、繰り返し使えるものを選ぶことなどは賢い買い方だと思う。

- コ) リフューズ(断る・ごみにならないものを選ぶ)について、何かアイデアはあるか。
- 委) スーパーではレジ袋を使うかどうか尋ねられるが、スーパー以外の店でも袋の要不要を尋ねるようにするといい。店側からお客さんに声を掛けてもらえると、袋を使用しない人も増えるのではないか。
- 委) ごみをそもそも排出しないということがいちばん難しいと思う。便利さとの戦いだ、個人的には便利さに流されてしまうことがほとんど。自分で一番できていない部分である。

事業ごみ

- 委) バイト先の会社では、ごみは分別せずに捨てている。これでいいのかと思う。事業所の多くは分別しているのだろうか。
- 市) 分別できていないところもある。
- 委) 事業所が出る発砲スチロールなどきれいなものなら、資源ごみとして地域のごみステーションに出してもいいのではないかと思うがどうだろうか。
- 市) 事業ごみは地域のごみステーションには出せない。
- コ) 事業ごみをステーションに出していいということになると、ステーションの管理も大変なことになってしまう。

情報の伝え方について

- 委) 外国籍の人は、出し方のルールが分からない場合が多い。彼らを雇っている企業が地域のごみの出し方など地域のルールについても教えるべきだと思う。
- 委) 分別していないと収集してもらえないので、代わりに地区の人が分別している。
- コ) ごみの出し方について外国語のリーフレットなどあるのだろうか。
- 市) 外国語表記のリーフレットは英語・中国・スペイン・ポルトガル・ベトナムの5か国語分を用意している。
- 委) ごみを自宅のたき火で燃やすことができなくなった。何でも燃やして良いというわけではないが、高齢になり自分でステーションまで運ぶことができなくなったときなど迷惑にならなければ燃やしてもいいのではないか。
- 市) 基本的に自宅でごみを燃やせない。
- コ) 基本的にということだが、どこまでならよくて、どの程度から燃やしてはダメなのだろうか。ただ規制をかけるだけでは、なぜ燃やせないのか、何を燃やしてはいけないのか説明があいまいだと市民の理解は得られない。
- 委) 「4R」という言葉について、聞き慣れず、よく分からない。行政サイドは分かるのだろうが、聞いたことがあるのはリサイクルくらい。専門的な言葉や横文字は理解しにくい。
- 委) 今回、インターネットで他自治体のごみ分別に関して調べてみた。横浜市では 50

音別に 1 点ずつごみの処分方法が検索できるようになっていた。このようにホームページ上で情報を充実させているところもあるようだが、ホームページを見ることができない人に対する伝え方も行政で検討してほしい。

ごみステーションについて

- 委) 昨年、地域でごみステーションの管理について話し合った。
本来別のごみステーションに出すべき地域外の人のごみを出していきることがあり、そういった人に限って分別できていないことが多いと話題に挙がった。
- 委) ステーションにくるカラスに困っていた。
対策として、篠竹の先で輪を作りステーションの傍に立てておくとカラスが来なくなった。

その他

- 委) スーパーのお弁当などを見ると全部売れるのか、食品ロスになっているのではないのかと気になっている。
- 委) 食事会や宴会での食品ロスをなくすための残さず食べ切り運動。
- コ) 最近はお弁当のプラスチック容器も問題になっている。世界ではプラスチックによる海洋汚染の問題もあり排出規制の方向で進んでいる。世界でプラスチックの排出量が一番多い国はアメリカで、二番目は日本だと新聞に出ていた。
- 委) 生ごみのリサイクルとして有機肥料を作っている会社を友人が経営している。
- コ) ごみに限った話ではないが、欧米社会では行政の守備範囲がせまく、個人や企業の負担が大きいことに対し、日本は、行政の守備範囲が広がった。
しかしながら、少子高齢社会に伴い税収も少なくなってくると行政の守備範囲も狭くなってくる。住民や地域だけでなく、民間企業の事業として経済が成り立っていくことは良いことである。

まとめ

- コ) 4 R 運動を行政が推進しており、特に、リフューズを推進していることが他自治体から比べると珍しく、特徴的であると思うが、市民に伝わっていなければ意味がない。市内の店舗なども巻き込んで何かできないだろうか。
また、燃えるゴミに出されている資源ごみとして雑がみが多いという話があったが、本日の資源倉庫の見学の中で、雑がみとしてお菓子の箱も出せるなど気づきがあったようだ。